

令和2年度 第1回伊勢市産業支援センター運営協議会 議事録

1 日 時：令和2年7月13日（月）14：00～16：00

2 場 所：伊勢市産業支援センター 研修室

3 出席者：委員14名

事務局 商工労政課：東世古課長、南主幹、山中

産業支援センター：澤村センター長、小山事務担当

4 欠席者：1名

5 概 要：内容は以下のとおり。

(1) 課長より開会のあいさつ、新たな委員の紹介

(2) 議題

①正副会長の選任

②令和元年度事業結果報告

③令和2年度事業経過報告

④令和2年度伊勢市事業報告

○主な意見等

・就労支援について、地元での就業を考える人が相談できるような場所、ここに連絡したらいい、という場所を学校との連携で作ってほしい。商工会議所などに、つなぎ役として相談窓口を作ってほしい。市町の企業情報をまとめていただけるとありがたい。

・人材紹介をしているので言ってほしい。県は「おしごと広場みえ」で企業情報を発信している。各市町もそれぞれ案内窓口をつくっている。

→就労支援については関係機関との調整やルールの整理が必要。市や会議所と相談していい形でできないか進めていきたい。また、商工会議所と皇学館大学との連携で宇治山田ショッピングセンターに産学官連携拠点の事務所を設けている。オンラインを主体とした学生のビジネス相談などの拠点にできないかこの4月から実験的に取り組んでいる。学生のビジネスや就労などの相談を受けられるように計画中なので、発表できる形になればまた次回のこの場やニュースリリースで発表させてもらう。

・起業家支援室を卒業した企業の現状調査のデータはどうされるのか。成功事例があれば、市外に対し情報発信をすればよいのでは。

→調査状況は45社のうち連絡が取れるのは半数程度。成功事例があってもクライア

- ントとの関係で公にしてほしくない企業もあり、現状の確認と追って支援できないか、というところでのアンケートの活用にとどまっている。
- ・セミナーなど小規模事業者にとっては昼間の時間帯だと行きづらい。夜のほうももう少し時間を作ってもらえるとありがたい。セミナー内容をみると重複しているものもあるので、より深掘した内容にしてはどうか。
- 是非参考にさせてもらおう。オンライン等の活用もしながら、より多くの皆様にお役にたてるテーマ、時間帯になるよう工夫していきたい。
- ・三重県よろず支援拠点でも雇用関係の助成金の相談を社会保険労務士を増強しているのでは是非活用していただきたい。
 - ・たくさんの事業をされていて感心している。もう少しインパクトのあることもやってみてはどうか。
 - ・国でやっている Go To キャンペーンの話をしたい。1兆6千万円の予算で旅行代の半額を国がもつという事業である。伊勢市がそれをどう活用するかを考えるとよい。皇学館大学で外国の学生が伊勢市のことを世界に発信する取組をしている。市や商工会議所がその取組を大きくするよう工夫したらどうか。また、事業をされる際には連絡をほしい。
 - ・人事をしていて採用の際にチラシをつくっても反応がないが、ネットだと反応がある。産業支援センターも情報発信にネット、モバイルにも力を入れられると効果があるのではないか。
 - ・起業家支援室の入居者の方はどのような悩み・要望があるのか、それは対応できるものなのか。
- 情報の連携をもっと積極的にしていかなければというのがセンター側の反省点である。もう少し活発に有益な情報を伝えていかなければならないと感じている。企業の情報を外に出していけるような場を設けていきたい。
- ・伝統工芸でこまやけん玉を体験してもらおう事業が今年はやらない。
こまやけん玉を扱える人がいないとPRできないので、教えてくれる人を育成することも大事だと感じている。そのような取り組みができればお願いしたい。
- 作れる人とそれを使える人に協力を得てこども向けのイベントなどを考えた時期もある。連携して伝統工芸振興にも努めていきたい。
- ・起業家支援について、卒業した後の支援をしていただけるとうれしい。卒業後の支援として不動産屋の紹介などしてもらえれば今後入居する人の役に立つのでは。新型コロナウイルスの影響もあるので特例であと1年延長があるとありがたい。
- 支援室を出た後のことは出る前から相談させていただく。伊勢市とも相談して新型コロナウイルスの影響もあるので特例的に半年など、延長できないか検討している。
- ・女性起業セミナーを受講された人のその後の相談はどうされているのか。

→連絡先をもらっている人にはメルマガなどを配信している。受講された直後はリポートして相談してもらっている。

- ・食の開発支援事業について、フードコーディネーターなどの資格取得の支援があるといい。小規模事業者はなかなか自分で取得するのが難しい。

また、食品開発をしようとしても、市内の業者と折り合いがつかず市外の業者に頼むことがある。食の開発のスペースもあるので、そういった市内の業者とのつなぎ役をしていただければありがたい。

- ・伝統工芸の関係の講座があるなら、起業を目指す人だけでなく、ハードルを低くして趣味で受けられる講座をしてもよいのでは。そこから起業できる人を見つけていくとよいのではないか。
- ・いろいろと工夫されているが、皆に浸透していないところがある。時代に合ったツールでさらに情報発信をしてもらいたい。企業見学の受け入れなどは協力したい。
- ・オンライン相談は3件のみということだが、オンラインで相談を受けるというやり方は難しいのでは。また、事業の目標が何かははっきりしない。例えば相談会や勉強会をやってどれだけ起業した人が出たのかなど成果も示してもらいたい。
- ・少人数でこれだけの事業をされるのは素晴らしい。目立つことも大事だが地道に続けるのも大変なこと。事業として目立つ要因の一つとして、経済産業省の事業などの大きなお金を獲得すること、研究開発系の大きなお金を獲得することがある。このような事業を大々的に宣伝できるとよい。伝統工芸と研究開発を組み合わせ（マスクの開発に伝統工芸のデザインを取り入れるなど）事業にするのもよい。

→オンラインについて、小規模事業者になるほどITの活用が進んでいない現状がある。製造業は特に対面式を重んじる傾向がある。第1回オンラインセミナーは、いつもと違う企業が参加し、いつも参加している企業が参加していない。オンラインが壁になっている。これを乗り越えていくことが事業者の武器になると思うので、皆様の見本になるような形で取り組んでいければ。オンラインなので遠隔地との交流もして事業の効果を上げていきたい。皆様にはご援助いただきたい。

(伊勢市より)

- ・何か調査をしても次に反映できないことが多いので、今後は調査した結果を市でも役立てたい。
- ・就労に関してはハローワークもあるので窓口一本にすることが難しいが、商工会議所でも相談に乗ってもらっている。その窓口が学生に伝わるように工夫していきたい。
- ・伊勢市ではオンライン対応が遅れているので改善が必要である。この機会にオン

ラインへの知識を勉強し、新たな施策を考えていきたい。キャッシュレスの補助金をしたときも数件しか申請がなかった。ネット系にシフトしていただけるような取り組みを市としても考えていきたい。

- ・現在、産業支援センターそのものの用途について考えていくときがきている。産業支援センターの目的として起業（企業）支援、ものづくり支援、サン・サポートスクエアへの企業誘致の3つがあったが、来年度に向けて、木工作业所の在り方、起業家支援室もこの場所でよいのか、など皆様にご意見をいただきながら市としても考えていきたい。